

波照間島の鳥類調査

Birds Investigation Report in Hateruma Is., Yaeyama Islands, Okinawa Pref.

与那城 義 春

Yoshiharu YONASHIRO

はじめに

今回の総合調査は平成8年度から平成9年度にかけて八重山郡竹富町の波照間島で実施した。

波照間島は琉球列島の最南端（北緯24° 02' 25"、東経123° 47' 16"）に位置し、石垣港の南西方向約46kmの海洋上に存在する。島の面積は約12km²であり、東西方向に細長く、ほぼ楕円形を呈している。この島の地質は島域の大部分を石灰岩で形成され、その最下位に青灰色の泥岩から成る島尻層が広範囲に分布すると言われている。

波照間島の鳥類生息地は各地に成育している常緑広葉樹林をはじめ、農耕地域（草原等も含む）、農業用貯水池、集落地域、海岸・海洋等に大別される。近海には海水面から突出している大小の岩塊が散見される。渡りの季節になると、エリグロアジサシ等の海洋性鳥類が島の西側近海に散在する岩上に飛来し、休息場所等に利用している。

1. 調査地の概況

波照間島の中央部は集落地域であり、各屋敷の周辺等に多数のフクギやテリハボク等の樹木が成育し、防風林を形成している。そのほか、屋敷の内外にはリュウキュウコクタン、アコウ、ガジュマル等が成育している。また、島内の御嶽・拝所周辺や農耕地付近、海岸近辺にも常緑広葉樹林が発達している。

この島の大部分を占める農耕地域は主に甘蔗畑として活用されているが、その地域内の6～7箇所に農業用貯水池が造成されている。また、農耕地域内には狭小な草原や雑草地も散在する。

2. 調査方法

本調査は島内の鳥類生息地を常緑広葉樹林、農耕地・草原、集落地域、農業用貯水池、海岸・海洋に大別し、可能な限り各調査地を踏査した。但し、海洋の鳥類調査は海岸地域の踏査時に、海岸から海洋上を眺望しながら飛翔中の個体群のほか、海面から突出している岩上の海鳥類も観察記録した。

調査中、鳥種の識別は鳥体の目撃や鳴き声に基づいて実施したが、必要に応じて双眼鏡（8×30）も使用した。

なお、波照間島の鳥類調査期日は下記の通りである。

1996（平成8）年8月22～24日、1997（平成9）年9月4～6日

3. 結果と考察

波照間島の鳥類調査結果は表1に示されている通りであり、調査期間中に観察確認されている鳥類は41種である。

表1. 鳥類の調査結果 ○印：1996年8月22日～24日の確認種／◎印：1997年9月4日～6日の確認種

種 名	生 息 地	常 緑 広葉樹林	農耕地 草 原	集落地域	農業用 貯水池	海岸・海洋
カイツブリ <i>Podiceps ruficollis</i>					○	
アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>			○ ◎			
コサギ <i>Egretta garzetta</i>					○ ◎	
クロサギ <i>Egretta sacra</i>					○	◎
ツミ <i>Accipiter gularis</i>					○	
ミフウズラ <i>Turnix suscitator</i>			○			
シロハラクイナ <i>Amaurornis phoenicurus</i>					○	
バン <i>Gallinula chloropus</i>					○	
コチドリ <i>Charadrius dubius</i>						◎
シロチドリ <i>Charadrius alexandrinus</i>						◎
ムナグロ <i>Pluvialis dominica</i>			○ ◎		○ ◎	
ダイゼン <i>Pluvialis squatarola</i>			◎			
トウネン <i>Calidris ruficollis</i>						◎
ヒバリシギ <i>Calidris minutilla</i>						◎
ウズラシギ <i>Calidris acuminata</i>						◎
オバシギ <i>Calidris tenuirostris</i>						◎
アオアシシギ <i>Tringa nebularia</i>						◎
タカブシギ <i>Tringa glareola</i>					○ ◎	
キアシシギ <i>Tringa brevipes</i>						◎
イソシギ <i>Tringa hypoleucos</i>					○ ◎	◎
タシギ <i>Gallinago gallinago</i>				◎		◎
オオジシギ <i>Gallinago hardwickii</i>						◎
セイタカシギ <i>Himantopus himantopus</i>					○ ◎	
エリグロアジサシ <i>Sterna sumatrana</i>						○ ◎
コアジサシ <i>Sterna albifrons</i>						◎
キジバト <i>Streptopelia orientalis</i>		○ ◎	○ ◎	○		
コノハズク <i>Otus scops</i>		○				
アオバズク <i>Ninox scutulata</i>				○		
ツバメ <i>Hirundo rustica</i>			○ ◎	○ ◎		◎
ツメナガセキレイ <i>Motacilla flava</i>			◎	◎	◎	◎
キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>			○ ◎	◎	◎	
ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>			◎		◎	
シロガシラ <i>Pycnonotus sinensis</i>		○ ◎		○ ◎		
ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>		○ ◎		○ ◎		
アカモズ <i>Lanius cristatus</i>		○ ◎	○	○ ◎		
イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i>						○
メボソムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i>			◎			
セッカ <i>Cisticola juncidis</i>			○ ◎			
メジロ <i>Zosterops japonica</i>		○ ◎		○ ◎		
スズメ <i>Passer montanus</i>			○ ◎	○ ◎		
ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>		○ ◎	○ ◎	○ ◎		
計 (41種)		7 種	14種	12種	25種	5 種

表1より生息環境別に見ると、常緑広葉樹林では7種の鳥類が観察記録されている。その内訳を見ると、キジバト、コノハズク、シロガシラ、ヒヨドリ、メジロ、ハシブトガラスの6種は、本県内分布地域の生息実態から推測すると波照間島でも概ね留鳥であろう。

アカモズは島内の林縁付近に生息している渡り鳥であるが、各地域に飛来して採餌する本種は常に単独行動であった。

農耕地・草原では14種の鳥類が観察記録されている。その内訳を見ると、留鳥はミフウズラ、キジバト、セッカ、スズメ、ハシブトガラスの5種である。このうち、ミフウズラ、セッカの2種は農耕地・草原に周年生息している草原性鳥類である。スズメは主に農耕地域と集落地域を往来し、両地域を採餌場所やすみ場所として巧妙に利用しているようである。キジバト、ハシブトガラスの2種は森林性鳥類であるが、採餌のために樹林付近の耕作地内にも飛来していた。



耕作地で採餌中のハシブトガラス

渡り鳥はアマサギ、ムナグロ、ダイゼン、ツバメ、ツメナガセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ、アカモズおよびメボソムシクイを含めて9種である。アマサギの個体群（9羽）は農耕地域にある牧場のほか、その周辺の甘蔗畑付

近や雑草地で観察された。チドリ類のムナグロ（3羽）、ダイゼン（2羽）が耕作地で観察されたが、両種ともじっと休息していた。また、海岸付近の芝生地域では採餌中のムナグロ個体群（23羽）が観察記録された。ツバメの個体群（15羽）は主に農耕地域の上空を飛翔しているが、付近の電線上で休息中の少数個体（2羽）もいた。セキレイ類のツメナガセキレイの個体群（17羽）、キセキレイ（3羽）、ハクセキレイ（2羽）は各種類毎に行動し、島内各地の耕作地等で採餌していた。単独行動のアカモズは農耕地域の草原に散在するギンネム群落等の樹上や甘蔗畑付近で観察された。また、キマユムシクイ（1羽）が西側の農耕地域に成育しているギンネムの樹枝上で観察確認された。本種は採餌のためにギンネムの枝から枝へと移動していた。

集落地域では12種の鳥類が観察記録されている。その内訳を見ると、留鳥はキジバト、シロガシラ、ヒヨドリ、メジロ、スズメ、ハシブトガラスの6種であり、スズメ以外の5種は森林性鳥類である。

集落地域の家屋周辺にはフクギ、テリハボク、ガジュマル、アコウ等の樹木が成育し、防風林が形成されている。森林性鳥類の中で特にヒヨドリ、メジロ、ハシブトガラスの3種は採餌のために各種類別の少数個体群で集落地域の防風林に飛来していた。

公民館付近のガジュマル等にシロガシラの少数個体群が時々飛来し、その果実を採食していた。スズメの少数個体群は屋敷内の樹木や屋根等に飛来したり、採餌のために公民館前の広場にある芝生地域にも時々飛来していた。キジバトは集落地域内に散在する野菜畑のほか人家の庭にも殆ど単独で飛来し、採餌していた。

集落地域で観察された渡り鳥はタシギ、ツバメ、ツメナガセキレイ、キセキレイ、アカモズの5種である。タシギ(1羽)は9月6日の午前10時50分頃、公民館前の広場の雑草地に飛来したが、直ちに飛去してしまった。ツバメの個体群は主に集落地域の上空を飛翔しているが、家屋付近の電線に止まっている少数個体群(5羽)も観察された。ツメナガセキレイとキセキレイは集落地域の野菜畑に各種別の少数個体群で飛来し、採餌していた。また、小学校の校庭や幼稚園内の芝生地でも採餌のために飛来しているツメナガセキレイの少数個体群が観察された。

夜間調査(1996年8月22日)の時、アオバズク(1羽)が集落地域の樹枝上で観察された。このアオバズクはその樹木付近の街灯に集まって来る昆虫類を捕食するためにじっとしているようであった。本種の亜種アオバズク *Ninox scutulata japonica* は日本各地に夏鳥として渡来し、平地や山地の森林に生息して繁殖する。また、琉球列島には別亜種 リュウキョウアオバズク *N. s. totogo* も留鳥として生息し、繁殖している。ところが、今回の調査で波照間島から記録されているアオバズクの生息実態は殆ど究明されていない状況であり、野外観察1回だけによる両亜種の識別は困難である。従って、集落地域の樹枝上で観察されているアオバズクは移動の観点から留鳥と渡り鳥のうち、いずれに所属するか不明である。

農業用貯水池では25種の鳥類が観察記録されている。その内訳を見ると、留鳥はカイツブリ、クロサギ、ツミ、シロハラクイナ、バンの5種である。このうち、カイツブリ、シロハラクイナ、バンの3種は農耕地域の貯水池を主生息場所に行っているようである。通常、海岸地域に生息しているクロサギが庸原の農業用貯水池で観察された。多分、本種は採餌のために生息地の海岸から飛来したのであろう。また、ツミは庸原の農業用貯水池周辺のフェンスに止まって獲物を狙ったり、上空を飛翔したりしていた。

農業用貯水池で観察記録された渡り鳥はシギ類11種(トウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、オバシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、タシギ、オオジシギ、セイタカシギ)のほか、チドリ類3種(コチドリ、シ



庸原の農業用貯水池に飛来したセイタカシギ

ロチドリ、ムナグロ)、セキレイ類3種(ツメナガセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ)のほか、コサギ、コアジサシ、ツバメを含めて20種である。

集落地域付近で南西側に在る庸原の農業用貯水池は最も大型であり、その貯水池の一部で北東側周辺に隣接する狭小な湿地がある。渡りの時季になると、その湿地域に多種多様な湿地性鳥類が渡来し、採餌場所および休息場所として利用しているようである。

海岸・海洋では5種の鳥類が観察記録されている。その内訳を見ると、留鳥はクロサギ、イソヒヨドリの2種であり、主な生息場所は両種とも海岸地域である。クロサギは採餌のために海岸以外の場所にも時々飛来している。しかし、イソヒヨドリは雄1羽を海岸地域で1回だけ観察したが、他の場所では未確認である。

渡り鳥はイソシギ、エリグロアジサシ、ツメナガセキレイの3種である。このうち、イソシギ(3羽)とツメナガセキレイ(4羽)の2種は西海岸のハマシタン(ミズガンビ)群落付近の砂浜で観察された。エリグロアジサシ(6羽)は西側の近海で海面から突出している岩上に飛来して休息したり、その周辺海域の上空を飛翔していた。

4. 要約

今回の総合調査で波照間島から記録された鳥類は8目19科28属41種である。その内訳を見ると、留鳥は15種(36.6%)であり、渡り鳥が大半の25種(61.0%)占め、1種(2.4%)は所属不明である。

本調査は鳥類の生息地を常緑広葉樹林のほか、農耕地・草原、集落地域、農業用貯水池、および海岸・海洋に大別して実施した。

この生息環境別調査で最も多種類の鳥類を観察記録した生息地域は農業用貯水池の25種であった。このうち、留鳥は5種であり、渡り鳥が大半の20種を占めている。留鳥の記録はカイツブリ、クロサギ、ツミ、シロハラクイナ、バンの5種であった。渡り鳥20種のうち、シギ類が11種(トウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、オバシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、タシギ、オオジシギ、セイタカシギ)の記録であり、チドリ類3種(コチドリ、シロチドリ、ムナグロ)、セキレイ類3種(ツメナガセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ)のほか、コサギ、コアジサシ、ツバメも観察されている。渡りの時季になると、多種多様な渡り鳥が特に庸原の大型農業用貯水池の一部として北東側周辺に隣接している狭小な湿地域に渡来し、採餌場所等として利用しているようである。

二番目に多種類の鳥類を記録した生息地域は農耕地・草原であり、留鳥5種と渡り鳥9種の計14種の鳥類が観察確認されている。留鳥の5種はミフウズラ、キジバト、セッカ、スズメ、ハシブトガラスであり、渡り鳥の9種はアマサギ、ムナグロ、ダイゼン、ツバメ、ツメナガセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ、アカモズ、メボソムシクイである。

集落地域の鳥類は12種の記録であり、三番目に種類数の多い生息地域である。そのうち、留鳥はキジバト、シロガシラ、ヒヨドリ、メジロ、スズメ、ハシブトガラスの6種であり、渡り鳥はタシギ、ツバメ、ツメナガセキレイ、キセキレイ、アカモズの5種である。なお、夜間調査時に観察されているアオバズクは留鳥と渡り鳥のうちで、いずれに所属するか不明である。その理由として、本種の亜種アオバズク *Ninox scutulata japonica* は日本各地に夏鳥として渡来し、繁殖する。また、琉球列島には別亜種 リュウキュウアオバズク *N. s. totoyo* も留鳥として生息し、繁殖している。しかし、波照間島のアオバズクの生息実態はこれまでに殆ど究明されてないため、野外観察1回だけで両亜種の識別は困難な状況である。結局、今回のアオバズクは定着性と移動性のうち、どちらの個体であるか不明瞭であるため、所属不明種として扱うことにした。

四番目に鳥類の種類数を多く記録した生息地域は常緑広葉樹林内であり、7種の鳥類が観察確認されている。そのうち、留鳥はキジバト、コノハズク、シロガシラ、ヒヨドリ、メジロ、ハシブトガラスの6種あり、渡り鳥はアカモズ1種のみである。

海岸・海洋の鳥類は5種の記録であり、最も種類数の少ない生息地域であった。そのうち、クロサギ、イソヒヨドリの留鳥2種が海岸で観察記録された。また、渡り鳥のイソシギ、ツメナガセキレイの2種が海岸で、エリグロアジサシの1種が近海の上空や岩上で、それぞれ観察確認された。

波照間島の鳥類リスト

カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

カイツブリ *Podiceps ruficollis* (Pallas)

コウノトリ目 CICONIIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

アマサギ *Bubulcus ibis* (Linnaeus)

コサギ *Egretta garzetta* (Linnaeus)

クロサギ *Egretta sacra* (Gmelin)

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

ツミ *Accipiter gularis* (Temminck & Schlegel)

ツル目 GRUIFORMES

ミフウズラ科 TURNICIDAE

ミフウズラ *Turnix suscitator* (Gmelin)

クイナ科 RALLIDAE

シロハラクイナ *Amauornis phoenicurus* (Pennant)

バン *Gallinula chloropus* (Linnaeus)

チドリ目 CHARADRIIFORMES

チドリ科 CHARADRIIDAE

コチドリ *Charadrius dubius* Scopoli

シロチドリ *Charadrius alexandrinus* Linnaeus

ムナグロ *Pluvialis dominica* (Müller)

ダイゼン *Pluvialis squatarola* (Linnaeus)

シギ科 SCOLOPACIDAE

トウネン *Calidris ruficollis* (Pallas)

ヒバリシギ *Calidris minutilla* (Vieillot)

ウズラシギ *Calidris acuminata* (Horsfield)

オバシギ *Calidris tenuirostris* (Horsfield)
アオアシシギ *Tringa nebularia* (Gunnerus)
タカブシギ *Tringa glareola* Linnaeus
キアシシギ *Tringa brevipes* (Vieillot)
イソシギ *Tringa hypoleucos* Linnaeus
タシギ *Gallinago gallinago* (Linnaeus)
オオジシギ *Gallinago hardwickii* (Gray)
セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE
セイタカシギ *Himantopus himantopus* (Linnaeus)
カモメ科 LARIDAE
エリグロアジサシ *Sterna sumatrana* Raffles
コアジサシ *Sterna albifrons* Pallas

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

キジバト *Streptopelia orientalis* (Latham)

フクロウ目 STRIGIFORMES

フクロウ科 STRIGIDAE

コノハズク *Otus scops* (Linnaeus)
アオバズク *Ninox scutulata* (Raffles)

スズメ目 PASSERIFORMES

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

ツバメ *Hirundo rustica* Linnaeus

セキレイ科 MOTACILLIDAE

ツメナガセキレイ *Motacilla flava* Linnaeus
キセキレイ *Motacilla cinerea* Tunstall
ハクセキレイ *Motacilla alba* Linnaeus

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

シロガシラ *Pycnonotus sinensis* (Gmelin)
ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* (Temminck)

モズ科 LANIIDAE

アカモズ *Lanius cristatus* Linnaeus

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ツグミ亜科 TURDINAE

イソヒヨドリ *Monticola solitarius* (Linnaeus)

ウグイス亜科 SYLVIINAE

メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (Blasius)

セッカ *Cisticola juncidis* (Rafinesque)

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

メジロ *Zosterops japonica* Temminck & Schlegel

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

スズメ *Passer montanus* (Linnaeus)

カラス科 CORVIDAE

ハシブトカラス *Corvus macrorhynchos* Wagler

参考文献

- 日本鳥学会編, 1974. 日本鳥類目録. P.1-120. 学習研究社, 東京.
清 棲 幸 保, 1978. 日本鳥類大図鑑 I~II (増改版). 講談社, 東京.
黒 田 長 禮, 1980. 新版 鳥類原色大図説 I~II. 講談社, 東京.
黒 田 長 久, 1982. 鳥類生態学. P.220-260. (株) 出版科学総合研究所, 東京
木崎甲子郎編著, 1985. 琉球弧の地質誌. P.183-185. 沖縄タイムス社, 沖縄.
竹富町企画課編, 1997. 竹富町勢要覧. P.4. 竹富町役場, 沖縄.